

第9回 稲門建築会特別功労賞 (2006.5.30)

倉方俊輔



表彰理由：

倉方俊輔氏は、平成6年早稲田大学建築学科を卒業、その後修士課程、博士課程を修了された新進気鋭の建築歴史学を専攻する学者である。氏の学位論文は、「伊東忠太の建築理念と設計活動に関する研究」である。伊東忠太に関する研究の中で、これまでの資料以外に新たに資料を発掘し、その全貌を読み解いた倉方氏の功績は大きい。

次に、氏の研究の主なるものとして知られているのは、吉阪隆正に関するものである。氏の著作「吉阪隆正とル・コルビュジェ」(王国社)は新聞紙上での書評でも取り上げられたほど、その内容の普遍性と建築史学としての視点が高く評価されている。

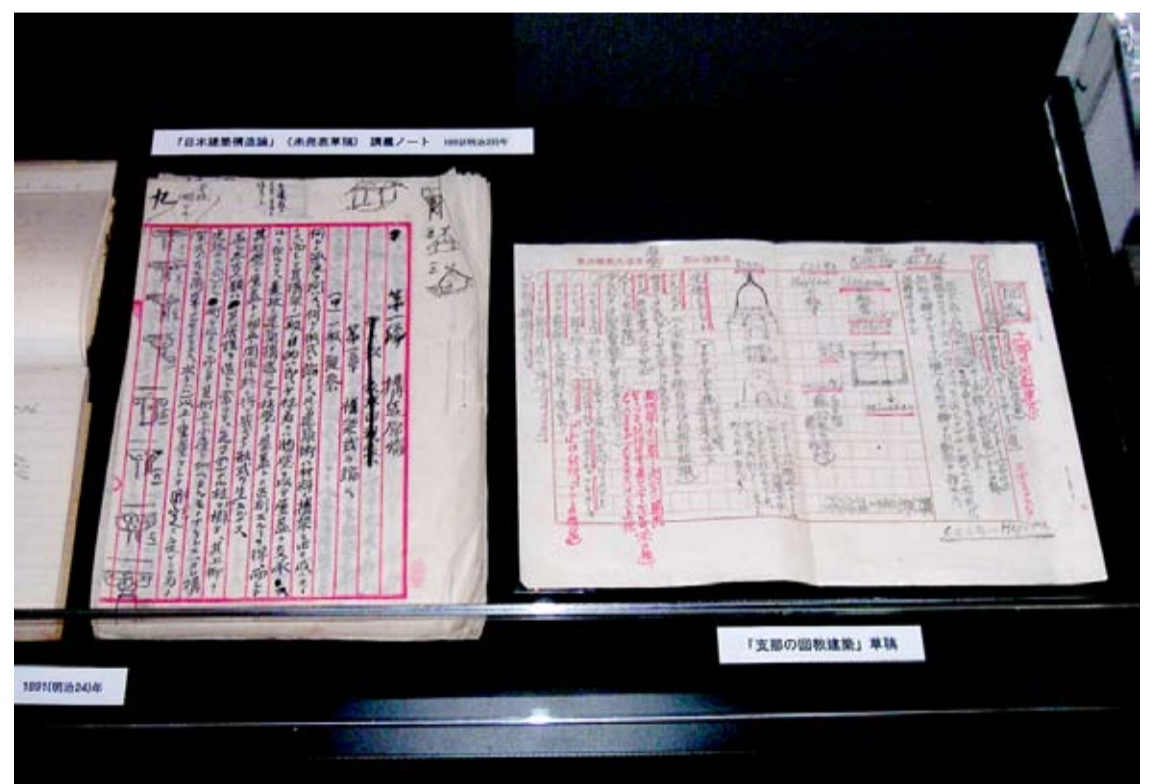
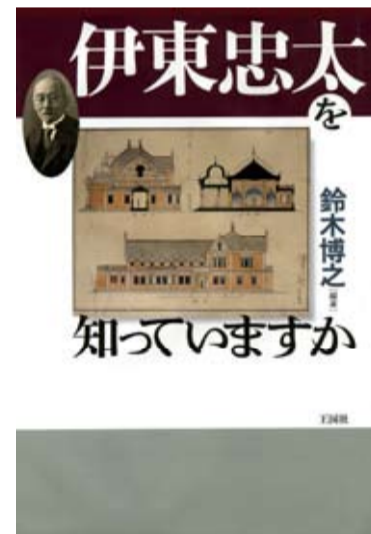
この二人の巨人を解読することによって、倉方氏は近世から近代・現代にいたる連続性の中で、建築史家としての立場を捉えようとしているように思える。

倉方氏の現在の身分は、フリーな建築史家であるが、大学の非常勤講師や著作なども多く、その活動の範囲は今後ますます広がりを見せると予測され、早稲田建築、稲門建築会に寄与することが大であると考え、ここに表彰する。

◎経歴：

- 1971年 誕生
- 1994年 早稲田大学理工学部建築学科卒
- 1996年 早稲田大学大学院修士課程修
- 1999年 早稲田大学大学院博士課程修
- 1999年～02年 早稲田大学理工学総合研究センター嘱託研究員
- 2003年～06年 日本学術振興会特別研究員
- 2004年 博士(工学)
- 現在 東京理科大学、明星大学 非常勤講師

- 2003年～04年 「建築家・伊東忠太の世界展」(フタリウム美術館、他) 企画構成
- 2004年 「2004 吉阪隆正展一頭と手」(建築博物館、他) 関連企画
- 2005年 「妖怪を見た男—近代建築界の巨人・伊東忠太の世界」(山形テレビ製作) 監修
- 2006年 (財)日本文化藝術財団「日本現代芸術奨励賞」受賞



新・空間の作り方

深澤直人

領域が変わる部分に心地良さのカギがある

暮らしを豊かにするから、おもしろい。出来た一歩引く豊かなデザインに、深澤直人のデザインは、建築界の巨人、伊東忠太の足跡を、ここに追いつきたい。だから多くの人が愛される。その深澤が、ル・コルビュジェと、吉阪隆正と、伊東忠太と、つながりを見つけた。

倉方俊輔



『日経アーキテクチャ』連載中

